



深い泉

幸せな贈り物

貪欲に
陥ってしまった
師匠と弟子

だんだん佳境に入る（漸入佳境） 最近、学生への暴力の常習犯の疑惑を受け入れたソウル大音大K教授49歳に、職位解除措置とともに、懲戒委員会にかけることが決定されました。今回のことは、該当教授が授業中に学生をむやみに殴ったという問題からはじまったのですが、ひとまず疑惑が公開されて、また別の非常識な行いが学生たちの証言を通してあいついであらわれたのでした。音大教授が一学期に16回しなければならない実技の授業を1、2回だけして、記録簿は実技をみなしたように作成していて、家族の行事に弟子を動員して歌を歌うようにさせたということです。

ソウルのある名門大の音大に通ったAさんは、2年前学校を止めて外国に留学に出ました。指導教授の暴言と暴力、コンサート入場券の押し売り、ブランド品のプレゼントの要求などに耐えることができなかったためです。京畿道内の4年制音大の声楽科を出たGさんは、教授との一対一レッスンの時や、授業中にいつも暴言に苦しめられていたのですが、「指導教授がレッスンの時『こんなにへたな実力でなぜ歌っているのか、声は良いから、歌わずにハクサイ売りをしなさい』といつも暴言を吐くのです」と言って「教える側ならばありえることというにはあまりにも侮蔑的だった」と話しました。また指導教授のコンサート入場券を数十枚ずつ買って、教授に高価な贈り物をする慣行も一、二度ではないと知らされました。Dさんも、一枚に3万ウォンである指導教授のコンサート入場券を60万ウォン分も買いました。彼は「お金がある子どもたちは、親が代わりに出しますが、生活が苦しい友だちはチケットを買うためにアルバイトまでしました」と話しました。Gさんは「声楽科の教授の場合、公演でアリアを歌ったのですが、拍手してあげて歓呼する人がなければ良くないうわさが広がるから、学生たちを動員して拍手部隊として立てるのです」と伝えました。一方、教授の「楽器商売」も蔓延した問題だと指摘されました。Eさんは「指導教授が特定製造会社のどんな楽器が良いと言えば、教授の顔色をみるために学生たちとしては買うしかない」と言って、「教授に紹介されて買った楽器店では、他の店よりはるかに高い値をつけることもあった」と話しました。このような問題は、外部にあまりあらわれないのは、教授と先輩の力が強大な音楽界の構造のためです。学生数は多くて、オーケストラなど就職先はあまりにも狭いと思うので、担当教授や古参の先輩に一度、見はなされれば、事実上、その底辺で生き残ることは難しいと言われています。実力も必要ですが、「どの先生の弟子」という身分がより大きく作用する現実で、指導教授の言葉は、そのまま「法」のようになるというのが、昔から続いているということです。

このような中、今回はカリスト(KAIST)の教授が、弟子をセクハラした事実があらわれて、自主的に辞退することがありました。カリスト大学院のA教授52歳は、学生たちを呼んで、次々とセクハラをしました。ある学生は「ある教授が研究室でワインを飲もうと呼んだあと『私と寝るかい？ちょっと遊ぼう』と話した」と主張して、またある教授は研究室に女子学生を呼んだあと「ブルースを踊ろう」と言って、身体を触ったりもしたという証言も出てきました。ある女子学生は「結婚するボーイフレンドと一緒に教授に挨拶しに行ったが、そこでも性的な卑劣な言葉を言われた」などと、口にするこゝろささいやなセクハラ発言を聞いたという他の女子学生の証言も少なくありませんでした。

今日のような競争時代に、成功のために貪欲の奴隷になっていく私たちの教育現実は、徹底して「師匠と弟子」という美德を踏みにじってしまい、自分しか知らない利己主義に捕えられています。動機がいずれにせよ、結果だけ良いならばなんでもする世の中、かくされた貪欲がいつのまにか、教育という名前で次世代に伝えられています。教育が利益の手段になるかぎり、教育現場にはサラリーマンだけがいるので、師匠と弟子はありえません。そして、このような世の中で暴力と墮落、呪いと災いの悪循環は繰り返されるしかありません。

どうすれば回復することができるのでしょうか

かつて東亜大のパク・キスン教授は「教育とは、人間が人間を相手にして人間を作ることだ…神様を知っている人が神様を知らない人に行き、神様を知る人にするのが教育学で、キリスト教教育学だ」と話しました。言い換えれば、真の教育のはじまりは、人間の根本を変えるところから始まるということです。

人間の根本に対して科学と知識がみな説明することができない事実を聖書は確かに明らかにしています。魚が水の中で、木が根を地におろして生きていくのが当然の原理のように、人間は神様とともにいてこそ幸せな霊的な存在として創造されたことを語っています。こういう霊的存在である人間が、神様を離れてから貪欲の奴隷になって、すべての問題が

始まり、呪いと災いと苦しみが入ってくるようになりました。お金がないから精神問題があるのではありません。医師がないから、不治の病になるのでもありません。夜通し楽しむのに、心が何となく寂しくて安らぎがない理由は为什么呢。子ども教育のためにすべてのものを投資してもがくのに、なぜ次世代はますます暴力と墮落に染まっていつているのでしょうか。成功したのになぜ自殺を選択しなければならぬのでしょうか。教育が足りないからではありません。根本的な原因は神様を離れているためです。それで、世の中で得ることができる平安と快楽は、いくら良くても少しの間だけで、瞬間的な満足であって、真の幸せにはならないのです。そのあとには必ずむなしさと呪い、さらに大きな不幸が付いてくるようになっていきます。それでは、なぜこのように不幸で生きなければならないのでしょうか。不幸をもたらす張本人がいるためです。聖書はその名前をサタン、あるいは悪魔と言います。悪霊あるいは惑わす霊と言います。サタンは人間が神様を知ることができないようにさせて、苦しめて、滅ぼします。

それで、神様はイエス・キリストをこの世に送って、人間が解決できない根本的な問題を解決して、救いの道を開いてくださいました。この世に来られたイエス・キリストは、人間の代わりに十字架で死んで復活されることによって、人間の罪と運命、呪いと災いの問題をすべて解決されました(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。信じる人と永遠にともにいてくださる神様の子どもになる道を開いてくださいました(ヨハネの福音書 14:6、ヨハネの福音書 1:12)。真の王として来られて、サタンの権威を打ち砕いて、その手から解放される道になってくださいました(ヨハネの手紙第一 3:8、ヘブル人への手紙 2:14~15)。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと語っています。人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方だということです。

だれでもイエス・キリストを信じて受け入れれば神様の子どもになって、人生のすべての苦しみから解放され、真の成功者と真に幸せな者の生活を送るようになります。幸せな師匠が幸せな弟子を作り出すのです。「あなたは大切な人です」

それでも「先生は希望です」

パク・ソンヒ教授が書いたコラム『先生が希望です』という文章を読んで深く共感したことがあります。

「始業の初日に私はびっくりした。先生たちがみんな教室のドアの前に私と大笑いで登校する学生たちを歓迎する姿が得意客に合う店主のようだった。アメリカ式あいさつだと言われたのだが、抱き合っただけで肩をたたきながら、強いイントネーションで言うあいさつの声で廊下が騒々しかった。1年あまり前、アメリカで子どもたちを学校に行かせて見守ったアメリカの教育は、学生を配慮して学生と密着しながら、学生の目の高さに合わせた先生の姿が迫ってきた。英語も知らず、友だちもいなかった子どもが、見慣れない学校に愛情を感じて、その国歌で歴史を口ずさむようになったことは、施設も制度でもない純粋に先生たちのおかげだ。少し几帳面のように見える英語の先生は、学期のはじめでの面談で困り果てているそぶりがありありと見えた。他の子どもたちは文学を話して、作文を書くのに、英語で名前をやっと書けるくらいの子どものをどうするのかと。先生ははじめに、英語の単語が書かれた別のプリントを作って家に持って帰らせて「特別管理」をしながら、すぐに課題とクイズ、発表などにも同じように参加するようにさせた。子どもは、自分を特別に、それと同時に他と同じように対してくれる先生のおかげで、英語がスクスク伸びた。アメリカの小学校にはじめて通う外国人学生に、はじめの9週間は、点数は付けるけれど、成績表には記入しない。言葉の問題のために低く出た点数を実際の科目の点数としてつけるのは公平でないという考えのためだという。ただ、数学などで高い点数をとれば、そのまま成績表に記入してくれる。アメリカの試験は、落とし穴を掘っておいて避ける能力を見るより、教えたことを正しく習っているのかを確認するのに重点を置く。習ったことだけががんばれば点数を取ることができる。自然に、塾など個人的に行う教育が入る余裕がない。そのような試験が育てた子どもたちは、どんどん制度に順応して、公正さと配慮の価値を知る。どんな善も大層な教育哲学や政策も、一人の「良い先生」とは変えることはできない。教育の質は決して教師の質を越えることができないためだ。1年後に韓国に戻った子どもは、しばらく風に当たったように味わったアメリカの学校に対して、何か基本的な点を忠実に教えたところ、がんばれば点数がとれたところ、そして、少しはやりやすいところで非常に良い印象を持っていた。うちの子のそのような印象が学校の施設や制度でなく、まさに先生に対する印象であったのはもちろんだ。アメリカの教育の顔はまさに先生の顔だったのだ」

大学民国とすら呼ばれる韓国の教育の熱意、塾などにかかる費用の負担は世界1位、大学進学率83.8%。それでも、私たちの教育現場では真の師匠と弟子のモデルを探すことが難しいのです。創意性や想像力とは距離が遠い注入式中心の入試教育からもう抜け出して、人間としていちばん重要な愛と配慮と激励と関心を育てる真の人間性教育が必要な時です。

「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。
そうすれば、年老いても、それから離れない。」（箴言 22:6）

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活にならずように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



イラスト_シン・ジョンウン

目をさましてください

春は奇跡の時間を毎日、だれにでもプレゼントする。まだ寒さが残っている山川だが、その凍りついた土地の下で新しい芽は光に向かって、すでに驚くべき旅程を始めた。雪と風に苦しめられた木々にも、その緑の夏のため萌黄色の葉への招待は幕を上げている。眠っていたものが目覚める時間の楽しみは、また温泉地をお祭り騒ぎにさせる。それで、春は目覚める季節だ。長い間の冬の眠りからさめて、使わずにおいた怠惰の時間も目覚めるようにさせるのが、春という季節があたえる遠い昔からの真理だ。

ある人がこのような笑い話をした。卵は自ら破って出ればひよこになるが、他人が破ってくればフライになるということだ。自分を囲んでいる生活の枠をどのように変化させられるのかが、すべての健康な人の希望であるようだ。人ごとに他人が知らない個人の領域がある。それが大きくは文化で、小さくは固執であるが、その枠の中で、人々は生活を成しながら、幸せと苦しみ、問題と喜びを味わうようになる。親も家庭の状況も自分の生活にまったく役に立たないと感じた青少年のヒョン Chol は、ただ村の子どもたちとつきあって、PC 喫茶店をのぞき込みながら、時間がとても多くて退屈なだけだった。しかし、ある日、夜中にゲームに没頭して赤くなった目をこすりながら外に出たところ、早朝の時間に自分と同じ年頃の子どもたちがバスに乗ろうと、どっと押しかけていく姿を見るようになった。はじめには「まぬけなやつら!」と思ったが、突然に自分も勉強したいという思いになった。しかし、勉強を近づけるには、とても遠く別の道に来てしまったという考えに留まって、むだな考えだと心を元に戻した。しかし、疲れても眠くなくて、ずっと勉強したい気

がすることを防ぐことはできなかった。青少年相談室を簡単に見つけた彼に、先生は希望をたっぷりプレゼントした。したい心がすなわち希望であり、それが君の枠を破る驚くべき時間だと励ました。大変でも、検定試験からじっくりと勉強することを案内してもらいながら、試験を受けるとき分からなければ鉛筆を転がして答えを書くという笑いももらった。結局、ヒョン Chol は驚くべきことに検定試験を合格して、地方の良い大学で未来をひらいている。自分のひどい境遇を悲観して挫折するかわりに、自分の枠を抜け出せる道があるという信仰を持ったヒョン Chol に、彼を困らせた問題は問題でなく、自分の殻を自ら破るひよこのようないのちの挑戦になった。人生にはヒョン Chol が見られなかった世の中、すなわち自らが作ったり、運命というくびきの中に自ら縛られて苦しんでいる現場がある。

人生はただ苦しみだけという考えは、正しい考えだが、事実ではない。現実的な要求に引きずられてみるならば、重要な意味をのがすことが好都合であるが、人間には自然にある問題の日常を越えて、特別な源泉である救いの場もある。自分の枠を握っているならば、準備された祝福をのがして、世の中をさまよいやすい。勉強をのがしたヒョン Chol が閉じ込められていなければならなかった枠のように、ひょっとしてそのような問題の中に私たちがいるのではないだろうか。フライではなく、ひよこのようにいのちの場に進むように、私たちもこの春に目覚めなければならないようだ。

チョン・ヒョングク_福音コラムニスト

*相談したい方はこちらまでどうぞ